

表3 昭和55年度芸術セミナー実施状況

部門	期 日	会 場	参加者数	内 訳
文学	5月22日 ～24日	田島町 中央 公民 館	39名	小説6名、詩3名、 短歌16名、俳句14名、
舞 踊	6月26日 ～28日	いわき市 文化センター	73名	
絵 画	7月24日 ～26日	棚倉町 中央 公民 館	61名	日本画18名、油絵28 名、版画15名
彫 塑	7月31日 ～8月2日	福島女子高校	31名	
演 劇	8月21日 ～23日	会津若松市 文化センター	57名	
工 芸	9月18日 ～20日	相馬市 中央 公民 館	44名	陶芸16名、紙工芸20 名、七宝焼8名
合 唱	11月6日 ～8日	郡山市 富久山 公民 館		

芸術セミナーは地域文化活動を推進指導する実作家、実活動家を対象として、実技、実作品を中心にその資質向

### 九 芸術セミナー

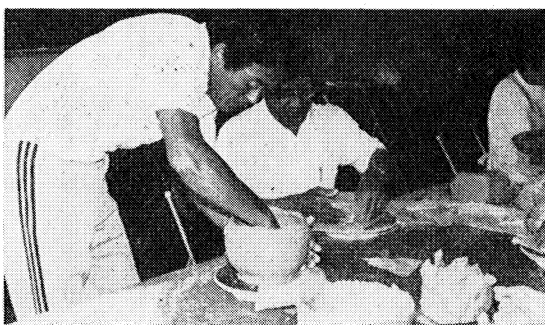
なお、それ以降は各文化団体の自主的活動により文化振興基金の活用を期待するものである。

白沢村、三春町、西郷村、会津高田町（以上二）  
新指定 安達町、浅川町、塩川町、昭和村、富岡町

今年度で指定町村数は累計三十一町村となるが、県としてはほぼ四十町村の指定となる昭和五十七年度をもって一応この事業に区切りをつける予定である。

上を図る目的で実施している。

県内を七ブロックに分け、部門を年次交代で順次開催することとしているが、開催地区内の指導者を中心に、県内各地から参加者があり、文化活動に携わる人々の研修と連携の機会として好評であった。



工 芸 部 門（相馬市）

### 十 「青少年芸術劇場」と「子ども芸術劇場」

子供又は青少年に対し、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の醸成に資する趣旨で、文化庁が派遣する我が国一流の舞台芸術の公演を県内四市において開催した。各地と

表4 青少年芸術劇場及び子ども芸術劇場実施状況

	公演種目	公演団体	期 日	会 場	鑑賞者数
青少年芸術劇場	・オーケストラ公演 ・演劇 ・朗読 ・ミュージカル ・ダンス ・人形劇 ・落語 ・寄席 ・民謡 ・太極拳 ・柔道 ・剣道 ・空手 ・少林寺流 ・合気道 ・少林寺流 ・少林寺流	(財)読売日本交響楽団	7月26日	いわき市市民会館	1,599
	・歌舞伎公演 ・歌劇 ・オペラ ・バレエ ・現代舞 ・人形劇 ・落語 ・寄席 ・民謡 ・太極拳 ・柔道 ・剣道 ・空手 ・少林寺流 ・合気道 ・少林寺流 ・少林寺流	株式会社 松竹	8月3日	福島県立文化センター 福島市市民会館	995
子ども芸術劇場	・合唱公演 ・歌劇 ・オペラ ・バレエ ・現代舞 ・人形劇 ・落語 ・寄席 ・民謡 ・太極拳 ・柔道 ・剣道 ・空手 ・少林寺流 ・合気道 ・少林寺流 ・少林寺流	株式会社 東京混声合唱団	8月26日	会津若松市市民会館	1,185
	・合唱公演 ・歌劇 ・オペラ ・バレエ ・現代舞 ・人形劇 ・落語 ・寄席 ・民謡 ・太極拳 ・柔道 ・剣道 ・空手 ・少林寺流 ・合気道 ・少林寺流 ・少林寺流	合声合唱団	8月27日	郡山市市民会館	1,281

### 十一 第三十三回県文学賞

表5 第33回 福島県文学賞受賞者

賞 名	作 品 名	作 者 名		年 令	職 業
		氏 名	本 名		
〔小説部門〕					
準賞	グート・ゲーム	水田 真理	半沢 真理	25	福島県点字図書館嘱託 福島市笹谷道場10の5
	聴診器	渡辺 晴晴		27	学生（福島県立医科大学） 福島市岡島字向中島71の2
奨励賞	翔べ！太陽の子ら	さとう もとかつ	佐藤 源勝	49	教員（いわき市立上遠野小） いわき市泉町字小山33
	初音	岩間 悠	石井 重衛	55	教員（県立猪苗代養護学校） 猪苗代町大字長田字西五十滝3967-2
〔詩部門〕					
文学賞	童 戯 考	太田 隆夫		43	地方公務員（杉妻公民館） 福島市大森字本町裏22の1
準賞	名 前	おと 隆夫	茂樹	43	公務員（郡山地方庁舎） 郡山市鶴見垣3丁目13-14
奨励賞	遺失物白書	とむらぎ 隆夫	高木 茂子	30	学生（和光大学） 東京都狹江市猪方657
青少年奨励賞	冬の花火	小林 きく	小林 キク	54	主婦 郡山市香久池2丁目13の5
青少年奨励賞	あてのない迷路	宇野原みつ		17	宮城県第三女子高校 郡山市安積町笹川字西長久保1-44
〔短歌部門〕					
文学賞	羊の旋律	高橋 正夫		61	郡山市 地方公務員 (郡山市役所)
準賞	銀杏樹の四季	佐藤 輝子		44	福島市 無 職
奨励賞	雪のまつり	ひらびら 白登	文彦	49	いわき市 神 (飯野八幡宮)
	風の町	斎藤美和子		41	梁川町 無 職
〔俳句部門〕					
準賞	桜の実	あまの 鉄丸	金子 安宏	55	いわき市 国鉄職員
	指の燈台	岩木 太郎	あまの 唯夫	52	いわき市 小名浜水産 高校教員
奨励賞	峠	すた 須田	あまの 正一	72	須賀川市 社 役 員
	雁 風 呂	西山 春潮	西山 新造	63	いわき市 自 営
	冬 銀 河	渡部 文男		20	会津若松市 会 社 員
青少年奨励賞	白 い 夏	齋藤 升英		18	須賀川市 須賀川女子高 3年

も好評で、約五千名の青少年が鑑賞した。

県文学賞は、昭和二十三年度以来、広く県民から作品を公募してこれを審査し、優秀作品を顕彰し、本県文学の振興を図る趣旨で実施している。本年度の県文学賞の作品募集は、八月五日に締め切り、小説、詩、短歌、俳句の四部門合わせて二百五十五点という史上最高の応募数であった一昨年と同数の応募があった。これは文学を愛する県民各位の御支援により本賞が県民文学活動の身近な発表の場として、また大きな目標として定着したものでありまことに喜ばしいことである。

応募作品の内訳は小説五十五、詩九十二、短歌五十四、俳句五十四点となっており、小説、短歌、俳句は史上最